岐阜県水産研究所の広報誌

第42号　2020年3月

水産研（すいさんけん）だより

【今回の内容】

1　渓流釣りのルールを解説する教材・プログラム「魚つりのはなし」
2　ドローンを用いたカワウ対策
3　診断件数から見た近年の魚病発生状況

ヤマメ

1　渓流釣りのルールを解説する教材・プログラム「魚つりのはなし」

釣り体験に使用する魚の模型

人口の減少や高齢化が進む現在、次世代の漁協組合員や遊漁者の育成が大きな課題となっています。特に将来の担い手となる小学生の「魚離れ」が進んでいるため、学校等と連携した教育普及活動が求められています。

当研究所では、そうした教育普及活動を促進するため、アマゴなど渓流魚に注目した教材・プログラム「魚つりのはなし」を考案・製作しました。

漁協の講習会での実施例

当研究所では、漁協や小学校などからの依頼を受けてこのプログラムを実施しており、渓流釣りのルール「遊漁券を購入する、体長制限を守る、禁漁区で釣らない」を紹介するとともに、魚の模型を使用した釣り体験を通じて、自然繁殖魚の持続的利用の重要性について解説しています。これまでの実施例では、参加者から「魚つりに行きたくなった、漁協のことや漁協の活動を初めて知った」などの感想が得られており、渓流釣りへの関心を高める方法として、また、漁協の役割を紹介する方法として役立つものと考えられます。

小学校の総合学習での実施例

この教材・プログラムは、渓流釣りの振興や自然繁殖魚の持続的利用を目指して、今後、漁協や小学校などでの活用が期待されます。教材・プログラムの詳細については下呂支所におたずねください。

教材・プログラム紹介パンフレットのPDFは、岐阜県水産研究所HP内の「環境教育」ページに掲載しています。

http://www.fish.rd.pref.gifu.lg.jp/kyoiku/program/sakana-tsuri/sakana-tsuri.htm

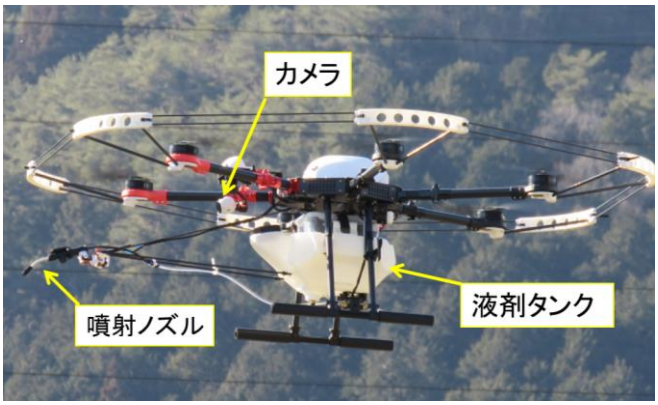
（下呂支所　岸）

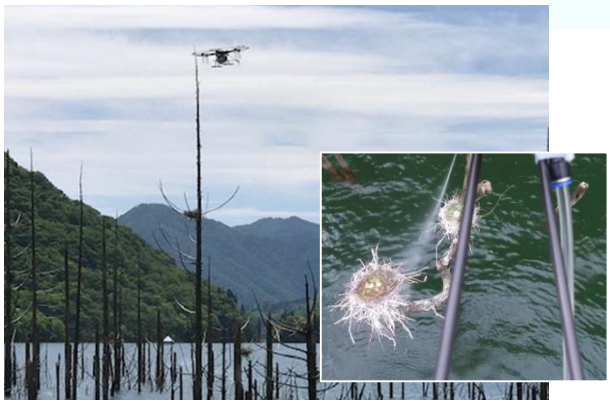
2　ドローンを用いたカワウ対策

銃器に頼らない有害鳥類の個体数抑制方法として、卵に塗布した液剤により、卵表面の気孔を長時間閉塞させ卵を窒息させるオイリングという方法があります。しかし、カワウは外敵から卵や雛を守るため、高木の上層付近等に営巣することが一般的であり、人が巣に近づくには危険を伴います。そこで、この液剤を遠隔操作型マルチコプター（ドローン）から噴霧できれば、高木に営巣するカワウに対しても効率的な対策が可能となります。

なお、オイリング用液剤として一般的な石鹸水は水溶性であり、降雨等により成分が洗い流され、効果が損なわれる可能性があります。このため、これに代わる液剤として、化粧品用途としても多く使用されている流動パラフィン（食品添加物規格）の卵発生阻害効果を確認しました。

今年度、徳山ダム湖面の立木群に形成されたカワウ・コロニーにおいて、飛行するドローンからの噴霧試験を行い、実用化に向けた課題（風の影響等）の整理を行いました。

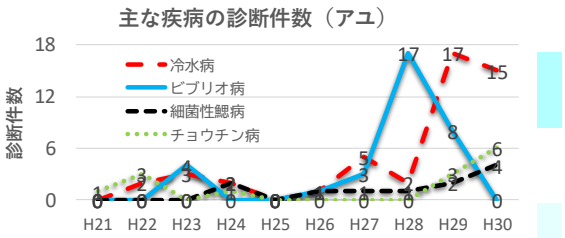


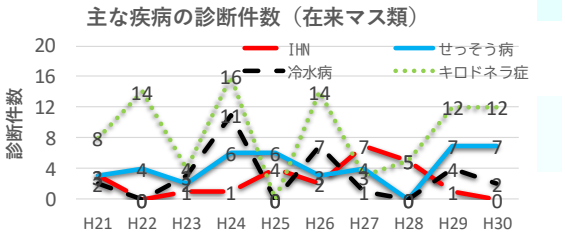


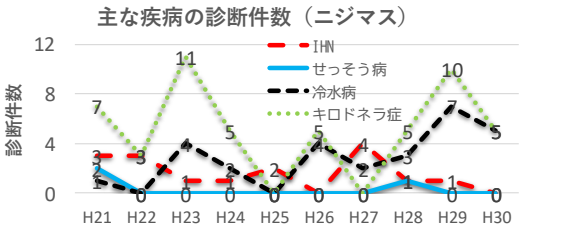
（下呂支所　田中）

3　診断件数から見た近年の魚病発生状況

水産研究所では、県内養殖業者の皆様等からのご依頼により年間30～90件の魚病診断を行っています。アユでは、ここ数年、ビブリオ病や冷水病の診断件数が急増しています。ビブリオ病については、人工種苗生産の現場における淡水化前の仔魚期に発生している例がほとんどです。このビブリオ病については水産用医薬品による投薬治療が可能ですが、発症サイズが小さく気付きにくいので、被害を抑えるためには飼育魚の状態をよく観察することが重要です。ニジマスについては、近年、冷水病の発生が徐々に増加しています。ニジマスの冷水病はIHNと症状が似ていますので、これら疾病の発生が疑われる場合は水産研究所の診断を受け、発生した疾病に応じた対処を行いましょう。アマゴやヤマメ等の在来マス類については、せっそう病の発生が増えています。せっそう病の治療薬には、オキソリン酸やフロルフェニコール等の複数の薬品が承認されています。そのため、水産研究所において原因菌の薬剤感受性を調べ、最も効果的な薬剤を選定することをお勧めします。　（漁業研修部　武藤）







発行
岐阜県水産研究所
ホームページ　http://www.fish.rd.pref.gifu.lg.jp/
「岐水研」「ぎふすいけん」で検索

生態環境部・資源増殖部・漁業研修部　〒501-6021 各務原市川島笠田町官有地無番地　TEL：0586-89-6351　FAX：0586-89-6365
下呂支所　〒509-2592 下呂市萩原町羽根2605-1　TEL：0576-52-3111（代）　FAX：0576-52-4354